

もも・ネクタリン特報

H28. 3. 4 No. 1

J A 中野市営農センター

J A 中野市りんご・もも部会

もも・ネクタリンの発芽は平年より4~5日早まると予想されますが、今後の気象次第ではさらに生育が進む場合も考えられます。休眠期防除が遅れないよう、剪定作業・SS走行路の確保・SSの試運転等の準備は段取りよく進めましょう。

(参考：過去4カ年の発芽日、平岡地区)

白鳳	平年	H24	H25	H26	H27
発芽日	4/1	4/8	3/28	4/2	3/31



【休眠期（発芽前）の散布】

◎昨年、縮葉病が発生した園地や、カイガラムシ類の発生密度が高い園地では、休眠期の防除を徹底しましょう。特に、薬剤のかかりにくい部分（樹の上部や先端）に多く発生が見られます。薬剤散布時は樹全体に薬液がかかるよう、たっぷり散布しましょう。

◎石灰硫黄合剤体系とトレノックスフロアブル体系の2体系を記載しています。下記の内容をよく読み、いずれかを選択して散布を実施ください。

石灰硫黄合剤 体系		散布日	月	日
		散布量		リットル
散布時期：発芽前(3月中旬~下旬)				
散布薬剤	水	90		リットル
	展着剤	10		ml
	石灰硫黄合剤	10		リットル
対象病虫害：縮葉病・カイガラムシ類・ハダニ類				
散布量：10アール当たり 300 リットル				
【注意事項】				
① カイガラムシ類の発生園は、スプレーオイル 50 倍を合剤散布の5~6日前に単用散布する。				
② 石灰硫黄合剤は、隣接するハウスビニールにかからないよう注意する。				

トレノックスフロアブル 体系		散布日	月	日
		散布量		リットル
散布時期：発芽前(3月中旬~下旬)				
散布薬剤	水	98		リットル
	展着剤	10		ml
	トレノックスフロアブル	200		ml
	(スプレーオイル)	2		リットル
*注意事項① 参照				
対象病虫害：縮葉病・せん孔細菌病・(カイガラムシ類・ハダニ類)				
散布量：10アール当たり 300 リットル				
【注意事項】				
① カイガラムシ類の発生園は、スプレーオイル 50 倍を加用散布する。				
② トレノックスフロアブルに代えて、キンセツ水和剤 80 の 1000 倍（開花前まで、5回）でもよい。				
③ スプレーオイルを加用する場合は、トレノックスフロアブルを先に溶かし、スプレーオイルを後から加えて、よく攪拌する。				

【せん孔細菌病・カイガラムシ類・コスカシバ防除対策】

- ① カイガラムシ類の多発園は、被害部を金ブラシ等で削り落とす作業を実施する。(または、被害枝の切除)
- ② せん孔細菌病発生園は、開花5~6日前にキンセツ水和剤 80 の 1000 倍（開花直前まで、5回）を特別散布する。
*枯れている枝は、見つけ次第切除する。
- ③ コスカシバの発生園では被害部の樹脂を取り除き、ももはガットサイドS 1.5 倍液(30日前、1回)を樹幹部に塗布する。また、ネクタリンはガットキラー乳剤 100 倍(休眠期)又はトラサイドA 乳剤 200 倍(幼虫食入期)を樹幹部・主枝に散布する。*使用回数は併せて3回までとする。

裏面も必ずご覧ください

【凍害対策について】

樹の枯死は、冬季の気温上昇と3～4月の寒のもどりによって樹体凍害が発生し、それが原因で樹勢衰弱・枯死に至っていると考えられております。本年も、平年より平均気温が高い日が続いており、寒のもどりによる凍害の発生が心配されます。また、園内環境（排水性・風当たり等）によっても凍害の発生に差が見られるため、凍害の多発地域では、以下の事項にご注意ください。

①稲わら等の資材を樹幹に巻きつけている場合は、除去を遅らせる。（4月下旬頃に除去する）

*薬剤散布が樹幹にかかりづらい状況になるため、特に凍害が心配される場合や6～7年生までの若木のみ除去を遅らせる。

②排水性の悪い園地では、暗きよや明きよ等によって排水対策に努める。また、新たに苗木を定植する場合は、浅植えに努める。（定植方法は下記参照）

③風当たりの強い園地では、防風ネット、防風林等で緩和に努める。

【苗木の植え付けについて】

①植え穴は苗木の根の2倍の大きさと、土とユーキリン(1kg)、もみがらくん炭(適量)、エアープイント(完熟堆肥)を混ぜて埋め戻し、定植に備える。

*ユーキリン(20kg : 3,865円)、もみがらくん炭(300 : 496円)、エアープイント(18kg : 529円)は、営農センターにて取り扱っております。

*化成肥料を施用する場合は、定植後とする。多量の施肥は根をいためる場合があるので注意する。

②特に土壌が乾燥しやすいので、植え穴に水をたっぷり入れて植え付ける。（3月下旬～4月上旬に定植する。）

③植え付け時は、根を放射状に広げ、各々の根に細土が密着するように丁寧に土をかける。

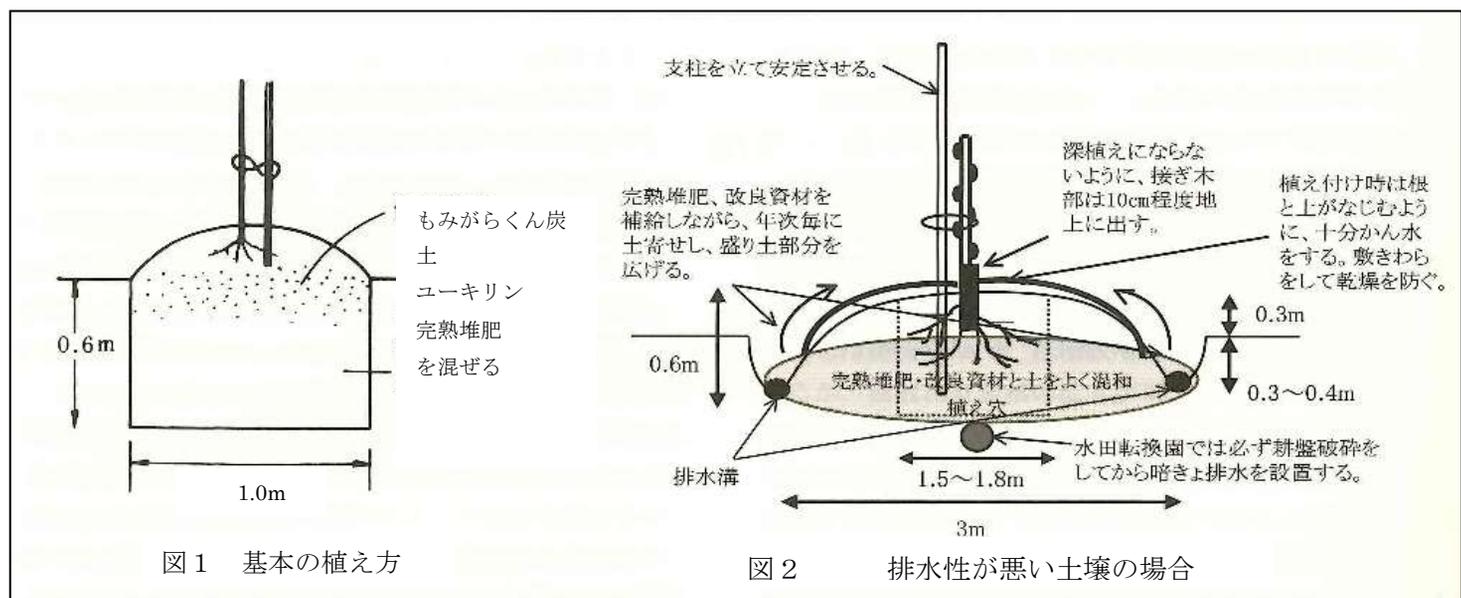
太根の先端を剪定鋏で切っておくと、発根が良くなる。

土をかけたら、苗木を軽く持ち上げるようにしながら足で軽く踏みつけて、たっぷり灌水を行なう。

④植え付けの深さは、接ぎ木部位が地面からわずかに出る程度とする。

⑤苗木は支柱を立てて固定し、揺れを防ぐ。

⑥苗木の剪定(切り戻し)は定植後に行い、地上部30～50cmの高さで充実した芽の上で切り戻す。



平成28年度 モモ・ネクタリンの苗木導入に対する補助事業のご案内

JAの補助事業（JA園芸特別対策事業）

苗木注文は秋に取りまとめ

- ・モモ・ネクタリンの苗木を10本以上購入された場合 —— 苗木代金の50%以内を助成

国の補助事業（果樹経営支援対策事業）

申込受付は夏頃を予定。事前着工不可。国の事業のため審査あり。

- ・品目、品種転換による改植の場合・・・改植費用17万円/10a + 未収益期間支援22万円/10a
- ・新植の場合・・・苗木代金他の50%以内 + 未収益期間支援22万円/10a

この機会に、積極的に園地の若返りを図っていただきますよう、お願いします